

環境動態研究室

水環境中の微生物・化学物質の動態に関する研究



教授
原本 英司



助教
中村 高志

原本グループの研究テーマ ～水中の健康関連微生物～

1. 微生物遺伝子マーカーを活用した水環境中の糞便汚染源の可視化
2. 浄水・下水処理による病原微生物(ウイルス, 原虫, 病原細菌)の除去率の調査
3. ネパール・カトマンズ盆地における病原微生物の汚染実態の調査

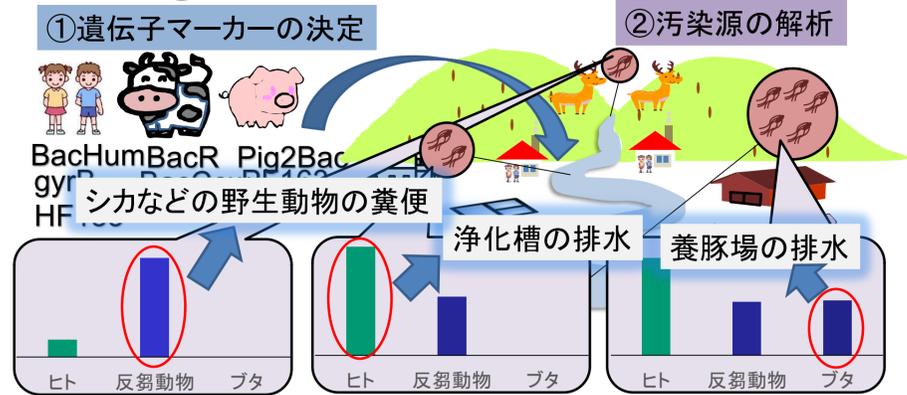
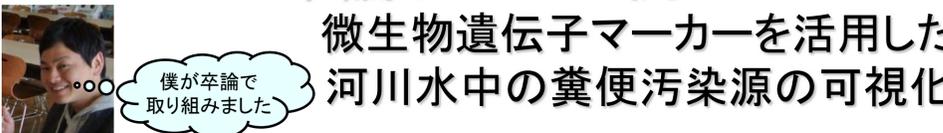


Facebookにて
活動情報を配信中

国内外の研究機関とも連携しながら、フィールドワークを主体に、微生物の視点から水環境の質の評価に取り組んでいます

卒論テーマの例

微生物遺伝子マーカーを活用した
河川水中の糞便汚染源の可視化



糞便汚染の発生源対策に活かすことができる

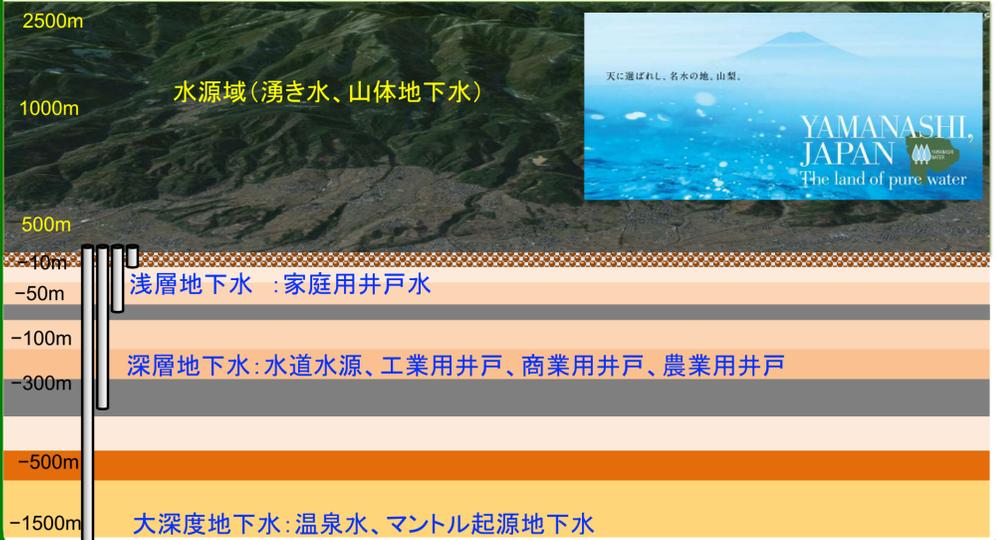
中村グループの研究テーマ ～地下の水資源の探索～

人が利用できる淡水の98%は地下にあります

地下水は
どこでつくられ、どこへ流れるのか? (→安定同位体測定)
何年前の水なのか? (→放射性年代測定)
なぜ美味しいと言われるのか? (→溶存化学成分)



さまざま観測技術で、
世界中の地下水と比較しながら
良質な地下水が生成されるメカニズムと
その場所を調べています



限られた水資源。。。世界の水問題に挑戦!



国際流域環境研究センター
Interdisciplinary Centre for River Basin Environment

【大学院 +2~5年】特別教育プログラム
世界の連携機関と共同して研究したり、教育を受けて、
国際感覚を身につけることができる!



国際展開している民間企業に就職したり、研究者になって活躍している先輩も多数

卒業生からのメッセージ



環境動態研究室は、研究室内だけでなく、国際流域環境研究センターに所属する他学部、他学科の教員や学生などとも、一緒に活動出来たり、他分野の研究発表を聞けたり、アドバイスをもらえたりします。また、留学生も多く在籍しており、国際的な視野も広がる最高の環境が整っています。みなさんがこの研究室に所属し、卒業する時には、きっと大きく成長し、一生の宝物を手にかけているはずです。



研究室を選ぶときは、実際にやっている内容を知ることが大事です。どこでもいいやでは、その後の1年間がもったいないです。せっかく大学に通っているならば、ここでよかったと思って研究に励み、卒業した方が自分のためになると思います。



研究室は、1年間もしくは3年間の大半を過ごす場所です。研究室の研究テーマ、調査場所、雰囲気、教員など、理由はなんでもありますが、楽しみながら自分の専門を深められる場所を選ぶと、自分の財産になると思います。